

自治体データ利活用で拓く 災害対応の未来



2026.3.10 火 13:00-15:00
ハイブリッド開催 参加無料

防災科研では、災害発生から対応・復旧に至る災害過程を可視化し、自治体職員とともに高度化していく研究を行っています。本研究会では、能登半島地震で被害を受けた輪島市、兵庫県立大学、防災科研におけるデータ活用の事例を紹介します。また、これまでの被災地支援の経験を踏まえ、データ活用を進めている北九州市の事例も紹介します。さらに、民間企業からは自治体データの可視化やデータ活用例を紹介し、自治体データの活用方法について多方面から議論していきます。

13:00-14:10 第1部 講演

- 1 総合知による災害対応DXの推進に関する研究開発**
鈴木 進吾 防災科学技術研究所 社会防災研究領域 災害過程研究部門副部長
- 2 災害時におけるデータ活用を実現するための備え**
浦川 豪 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授、博士(工学)
- 3 判定だけで終わらせない
ー 並行展開する災害対応に、データをどう実装するか ー**
宇羅 良博 石川県輪島市 市立輪島病院 参事
- 4 COTSの概念と平常時から災害時の連続性を考慮したSaaSの構築
～給付金業務のDX⇒大規模災害業務のDXへ～**
塩田 淳 公益財団法人北九州産業学術推進機構ロボット・DX推進センターロボット産業推進課長、九州工業大学IoTネットワークイノベーション実証研究センター客員准教授

5 GISを活用した自治体業務支援に資するソリューション実証

川崎 貴道 九州電力株式会社 テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部
インフラマネジメントグループ 副長

6 GIS共通基盤が実現するデータ活用と災害対応

名和 裕司 ESRIジャパン株式会社 名古屋オフィス統括

14:10-15:00 第2部 パネルディスカッション & 意見交換

モデレーター：鈴木 進吾

パネリスト：浦川 豪、宇羅 良博、塩田 淳、名和 裕司、

北島 幸一郎 (九州電力株式会社 テクニカルソリューション統括本部
土木建築本部インフラマネジメントグループ長)

研究会終了後、登壇者との意見交換、交流の時間を設けております。



鈴木 進吾



浦川 豪



宇羅 良博



塩田 淳



川崎 貴道



名和 裕司



北島 幸一郎

会場 防災科学技術研究所 東京会議室
東京都港区西新橋 2-3-1 マークライト虎ノ門 6F

申込方法 右側の QR コードの申し込みフォームより
お申し込みください。

お問合せ 防災科学技術研究所 災害レジリエンス共創研究会事務局
メールアドレス：info-kyosokenkyu@bosai.go.jp

申込締切 令和8年3月6日(金) 正午

